

令和3年3月30日  
林政審議会資料

# 森林・林業基本計画に掲げる 目標数値について

令和3年3月

**林野庁**

# 林産物の供給・利用に関する目標

## ■ 木材供給量及び用途別利用量の目標の考え方

- 各般の施策が推進され、望ましい森林の整備・保全が、前頁のとおり行われた場合の木材供給量を算出。
- 用途別の利用量については、住宅の梁・桁や非住宅分野での利用、燃料材の需要増加等を考慮しつつ、森林整備等により算出される供給量を用途別に配分。

## ■ 木材供給量の算出方法

- 育成林について、将来的に、望ましい作業システムに見合った路網密度を達成する森林の範囲が拡大すると見込む。路網整備にあたっては、自然的条件・社会的条件の良い森林に対して先行的に実施。
- この森林の範囲において、森林の有する多面的機能の発揮に関する目標に必要な間伐、育成複層林への誘導に必要な択伐、主伐と再造林等が計画的に行われるものとし、これらに係る伐採の発生確率等から木材供給量を算出。  
【間伐】3～9齢級は10年に1回、10齢級～17齢級は20年に1回の確率で間伐等が実施されるものとして設定  
【主伐】伐採齢の平均及び分散から算出した齢級毎の伐採の発生確率及び伐採率(皆伐100%、択伐30%)
- 伐採立木材積に対する木材供給量の割合(利用率)については、未利用材の活用を見込み、その向上(6割→7割以上)を見込む。

## ■ 木材供給量の目標値

以上の方法により、各々の森林においてふさわしい施業が計画的に行われた場合の5年後(令和7年)、10年後(令和12年)における木材供給量を算出。

	(実績)令和元年	(目標)令和7年	(目標)令和12年
木材供給量	31	40	42

(単位:丸太材積・百万m<sup>3</sup>)

# 林産物の供給・利用に関する目標

## 需要量の見通し

木材の総需要量については、将来の木材需要関連因子（住宅着工戸数、紙需要量等）を勘案して、用途別（製材用材、合板用材、パルプ・チップ用材、燃料材、その他）に見通す。

- ① 製材用材
  - ・ 建築用需要が大きなウェイトを占めており、新設住宅着工戸数等に影響を受ける。人口が減少に転じ、中長期的に住宅需要の減少が予測される一方、非住宅建築物、リフォームにおける利用促進や製品の輸出拡大により、令和12年の需要は増加を見込む。
- ② 合板用材
  - ・ 住宅等の下地材やフロア台板、コンクリート型枠、家具などに使用されている。住宅向け需要の減少が予測されるが、非住宅建築物や土木分野等における利用促進、製品の輸出拡大などにより、令和12年の需要は微増を見込む。
- ③ パルプ・チップ用材
  - ・ 需要の大宗を占める製紙用については、景気動向や古紙利用率に影響を受ける。近年、紙・板紙の生産量が減少傾向にあることを踏まえ、令和12年の需要は減少を見込む。
- ④ 燃料材
  - ・ 木質バイオマス発電施設の稼働状況や今後の計画、熱利用の動向等を踏まえ、令和12年の需要は増加を見込む。
- ⑤ その他
  - ・ 近年の原木輸出やしいたけ原木の需要の状況等を踏まえ、令和12年の需要は現状と同程度と見込む。

## 用途別利用量の目標値

用途別の総需要量を踏まえ、木材の安定供給体制の整備、木材産業の競争力強化・非住宅分野等での木材利用の取組が進展することを前提として、国産材の用途別利用量の目標を提示。

- ① 製材用材
  - ・ JAS製品、人工乾燥材、集成材ラミナ、ツーバイフォー用部材、内外装材などの国産材製品の供給拡大により、住宅用部材など既存需要分野における国産材への転換、都市部の非住宅建築物等における木材利用や輸出拡大を促進。
- ② 合板用材
  - ・ 構造用合板に加え、フロア台板用合板やコンクリート型枠用合板等の生産において、国産材への転換を促進。
- ③ パルプ・チップ用材
  - ・ 小曲材や低質材などの製紙原料や木質系新素材への活用を促進。
- ④ 燃料材
  - ・ 未利用材の効率的な運搬収集システムの構築等を通じて、木質バイオマス発電や熱利用向けの燃料用チップへの国産材利用を促進。
- ⑤ その他
  - ・ 原木輸出やしいたけ原木等において、一定の国産材需要を見込む。

# 林産物の供給・利用に関する目標

## ■ 総需要量の見通しと用途別利用量の目標値

- ・ 建築用材等(製材用材、合板用材)については、需要量の増加を見込み、国産材利用量も大幅に増加するものとして目標設定。
- ・ 非建築用材等(パルプ・チップ用材、燃料材、その他)については、需要量はトータルで堅調に推移すると見込み、国産材利用量も増加するものとして目標設定。

(単位:丸太材積 百万m<sup>3</sup>)

用途区分	総需要量			国産材利用量		
	(実績) 令和元年	(見通し) 令和7年	(見通し) 令和12年	(実績) 令和元年	(目標) 令和7年	(目標) 令和12年
建築用材等 計	38	40	41	18	25	26
製材用材	28	29	30	13	17	19
合板用材	10	11	11	5	7	7
非建築用材等 計	44	47	47	13	15	16
パルプ・チップ用材	32	30	29	5	5	5
燃料材	10	15	16	7	8	9
その他	2	2	2	2	2	2
合計	82	87	87	31	40	42

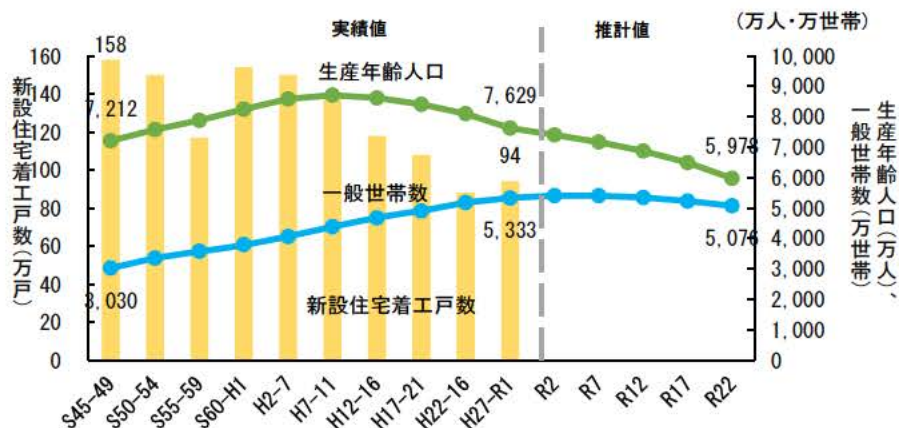
※燃料材とは、ペレット、薪、炭、燃料用チップである。 ※その他とは、しいたけ原木、原木輸出等である。 ※四捨五入の関係により、内訳と合計は必ずしも一致しない。

## 【参考2】木材需要の関連因子①

- 人口・世帯数の減少などにより、今後、我が国の新設住宅着工戸数は減少する可能性。各種の試算には幅があるが、令和12(2030)年で60~80万戸程度に減少するとの試算も。
- 一方で、非住宅分野や築年数の経過した住宅等のリフォームなどの需要が見込まれる。

### 建 築

#### 人口・世帯の将来推計



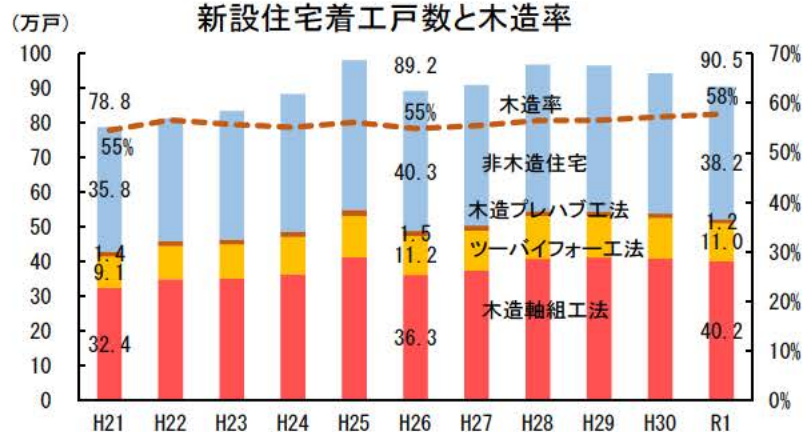
資料：国土交通省「建築着工統計調査」、総務省「国勢調査」  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」  
 " " "日本の世帯数の将来推計(全国推計)(平成30年推計)"/>

#### 非住宅建築物の新築着工床面積



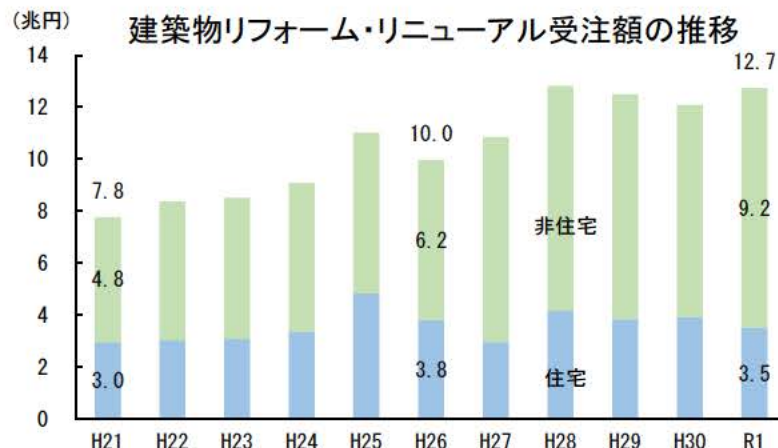
資料：国土交通省「建築着工統計調査」

#### 新設住宅着工戸数と木造率



資料：国土交通省「建築着工統計調査」

#### 建築物リフォーム・リニューアル受注額の推移

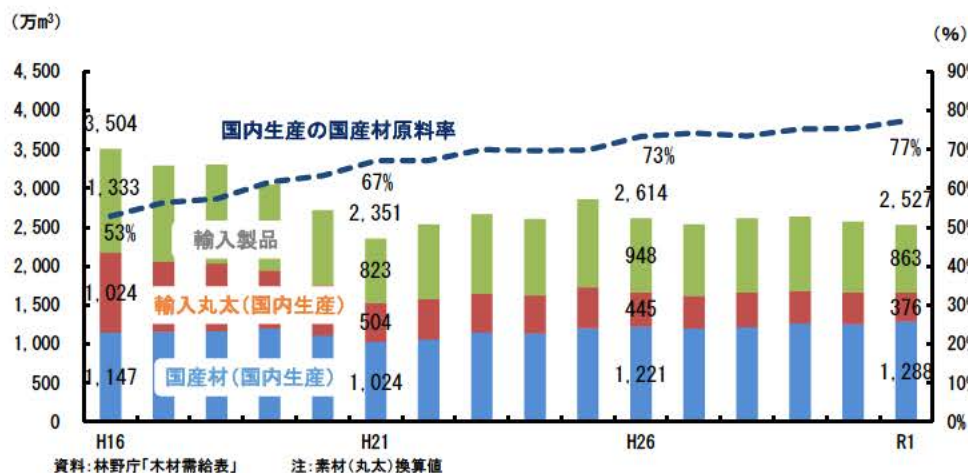


資料：国土交通省「建築物リフォーム・リニューアル調査」

## 【参考4】製品別の総需要等と国産材製品の推移

- 国内の製材工場、合板工場においては原料の国産材化が相当程度進展し、原料に占める国産材の割合は7割超。
- 集成材製品は国内生産が約67%を占めるが、このうち国産材の原料率は35%に留まるところ。
- パルプ・チップ用材の大部分は輸入パルプ、輸入チップによって賄われており、国産材の割合は低位。

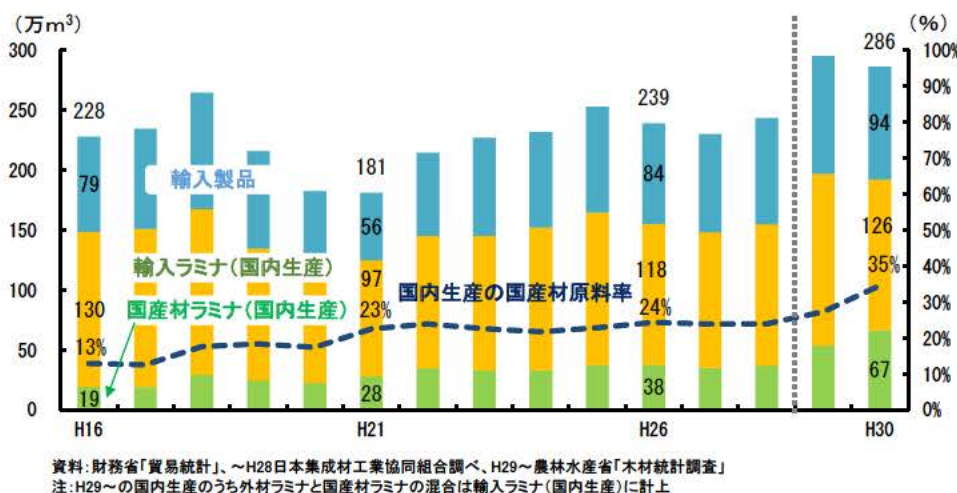
### ■ 製材用材の供給量の推移



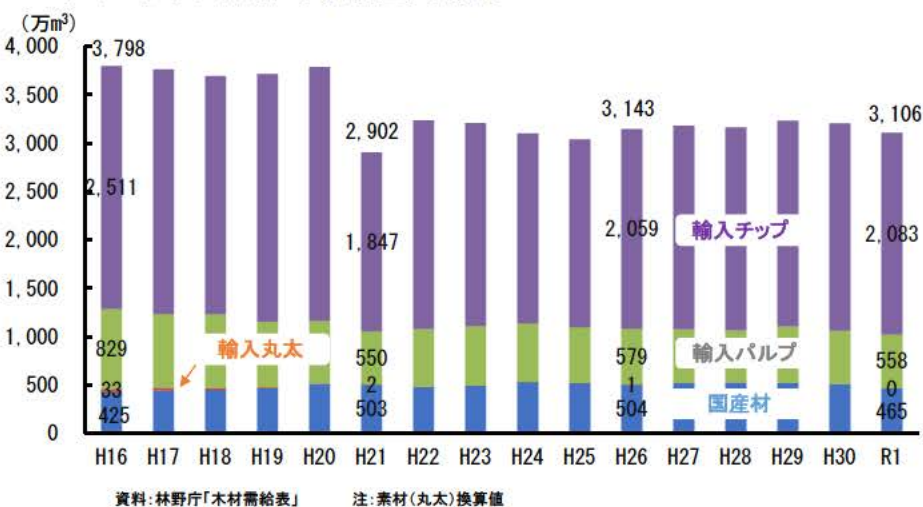
### ■ 合板用材の供給量の推移



### ■ 集成材(製品)の供給量の推移

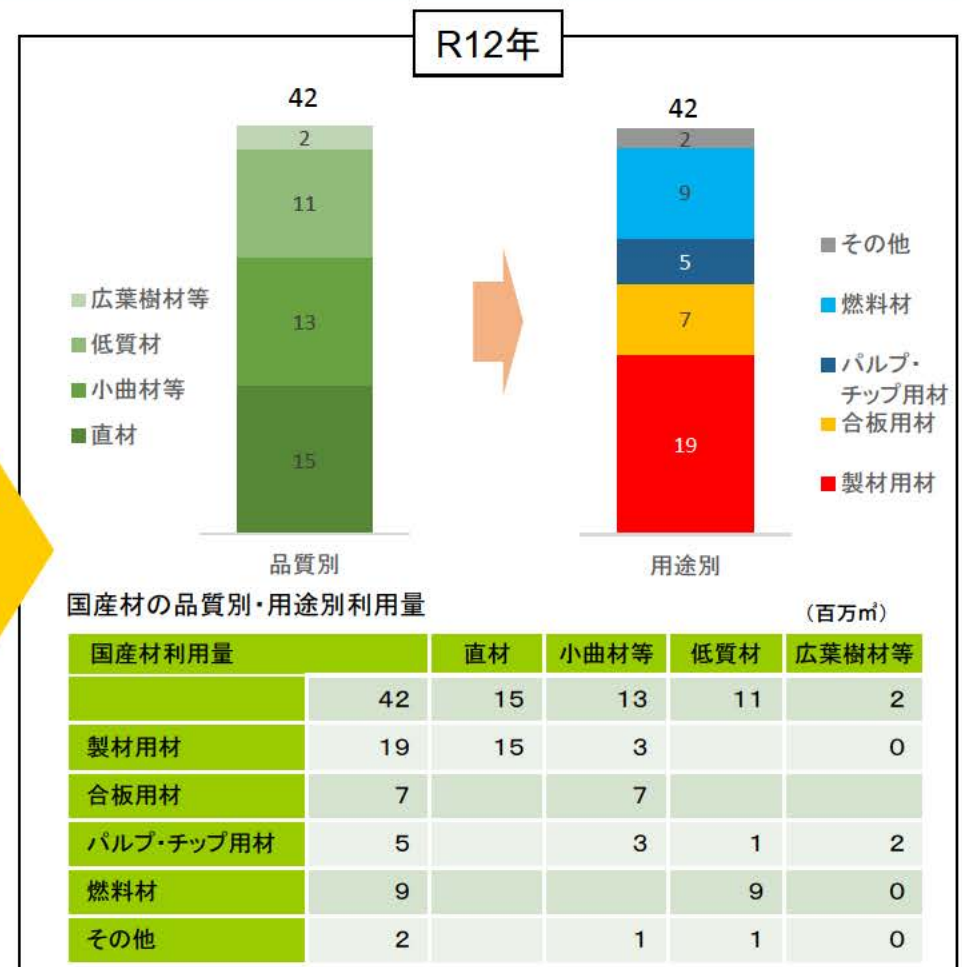
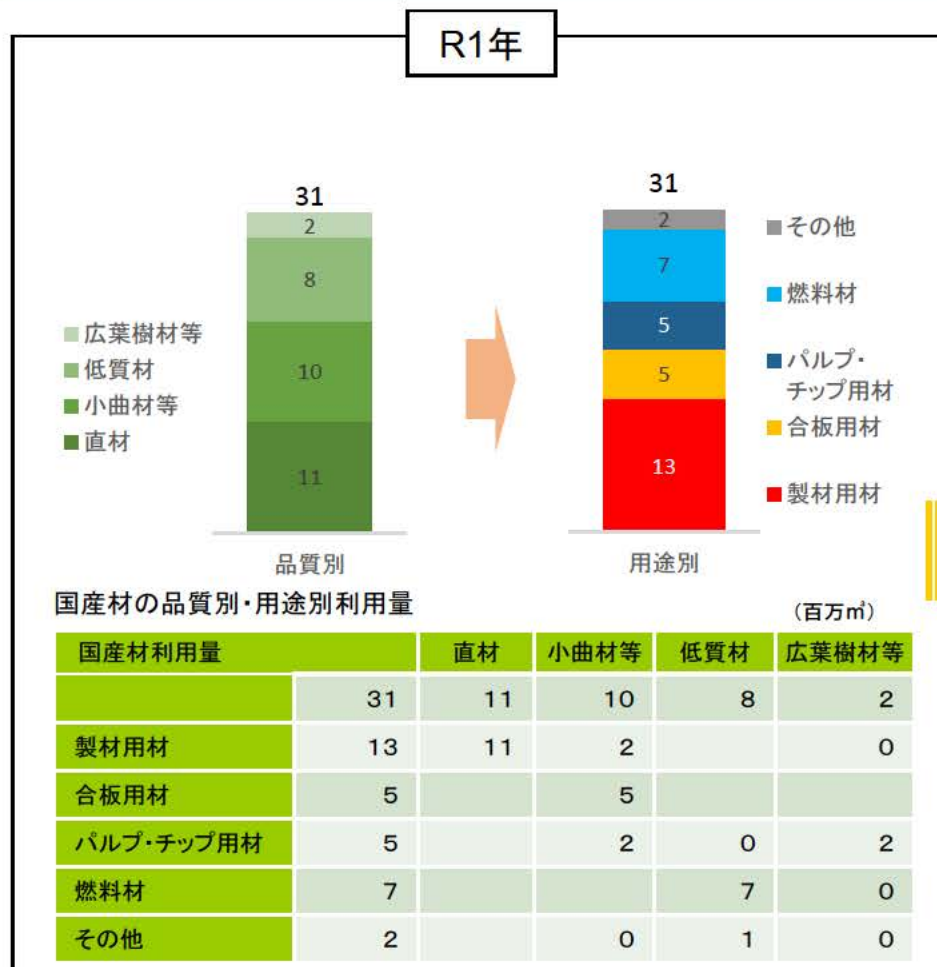


### ■ パルプ・チップ用材の供給量の推移



## 【参考6】国産材の品質別・用途別利用量

- 径級別木材供給量を基に、品質別供給量を算出し、次の考え方に基づき用途別利用量への配分を想定。
  - 直材は、全量製材用材としての利用を見込む。
  - 小曲材等は、合板、集成材等の加工技術の普及等により、主に製材用材及び合板用材、一部パルプ・チップ用材等としての利用を見込む。
  - 低質材は、主として燃料材としての利用を見込む。
  - 広葉樹材等は、パルプ・チップ用材、その他(しいたけ原木等)、燃料材(薪炭)等としての利用を見込む。



※四捨五入の関係により、内訳と合計は必ずしも一致しない。